

漫画で学ぶ

DNA



とある大学…

の

その隅の一室

…んせい

先生っ！

起きてください！





折子研究室
研究員
あでかわ ひとみ
艶川 仁美

もう！
いつまで寝てるんですか！





先生も
気合入れてください！

とにかく
今回は何としてでも
引き入れますからね！

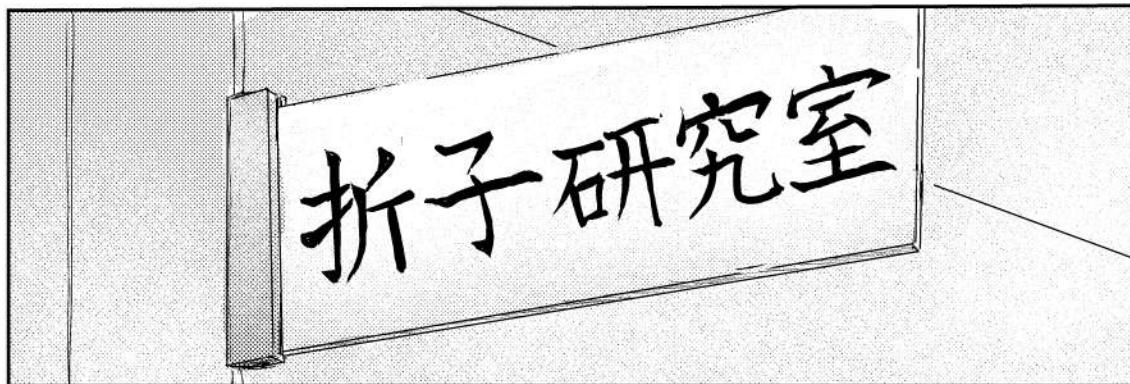
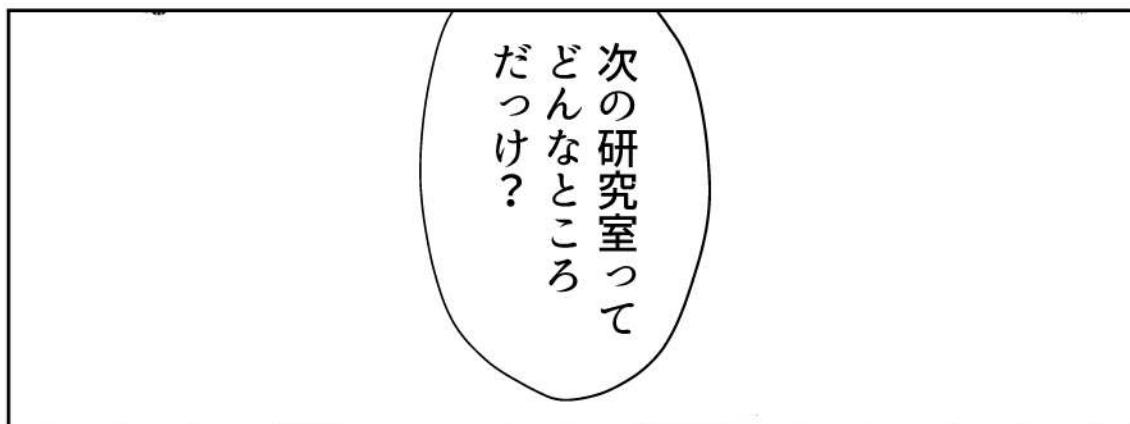
お願
いし
ますよ

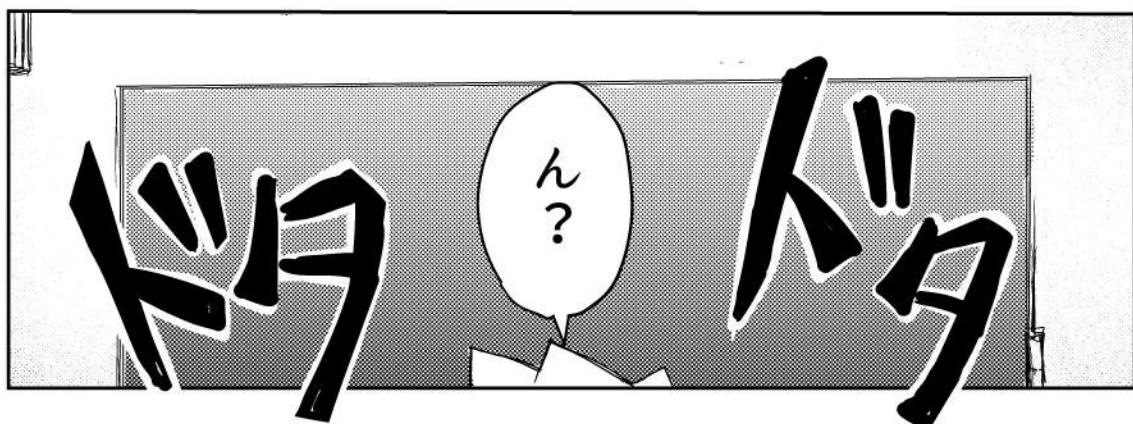
わか
つて
るつ
て
大
丈
夫
今回
はと
つて
おきの
秘
策
もあ
るか
ら



一方、そのころ







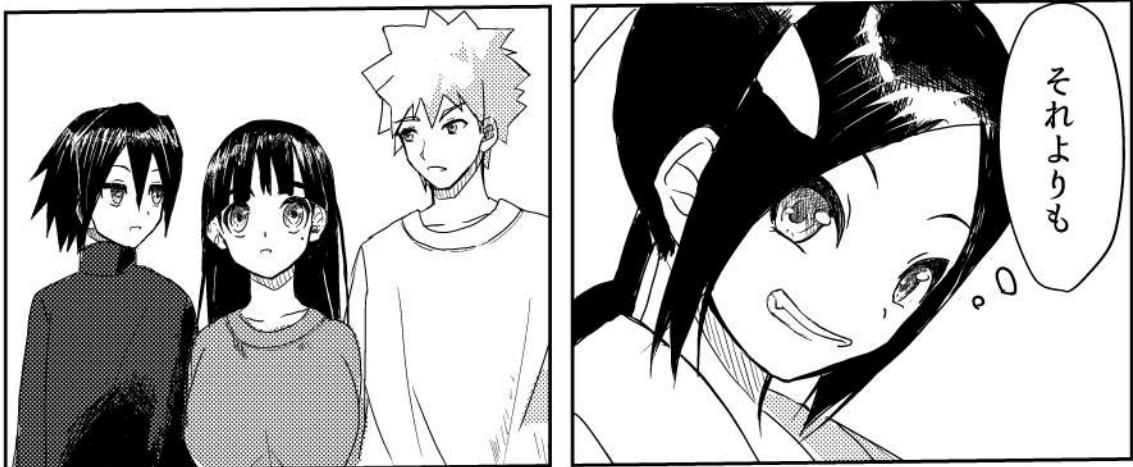
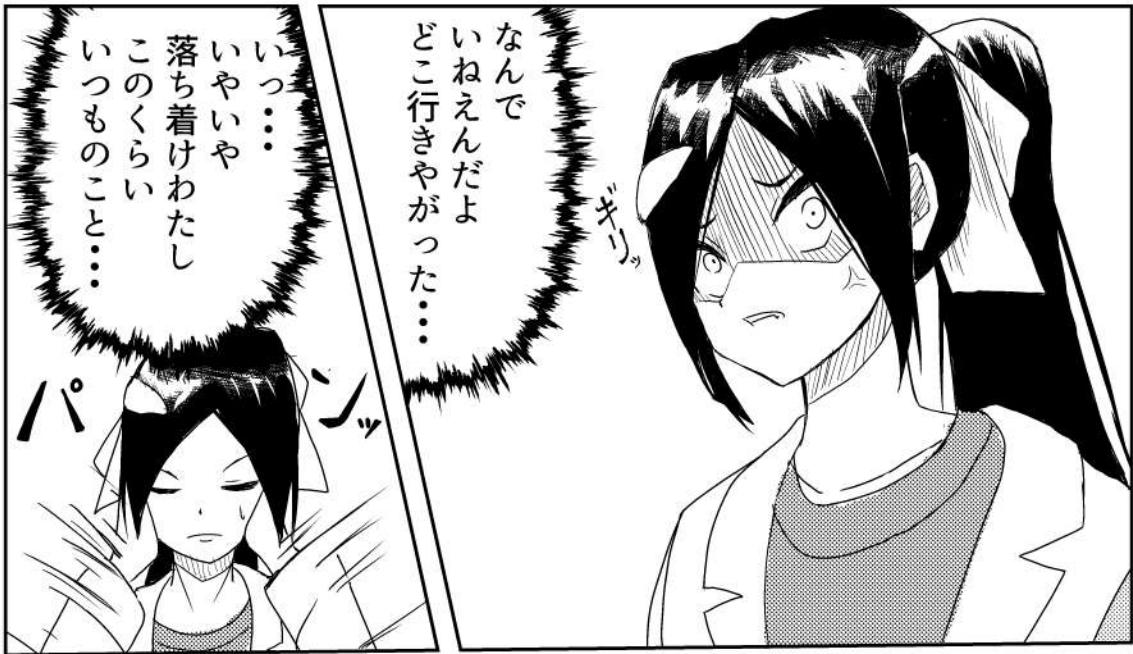
いらっしゃいましー♡

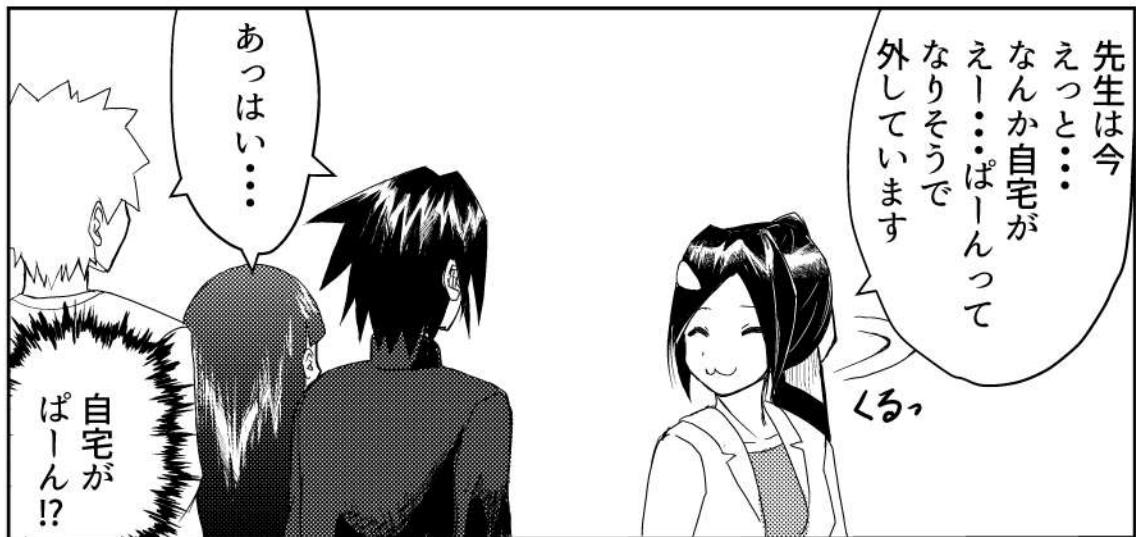


ほら、先生
来ましたよ
あいさつして
ください

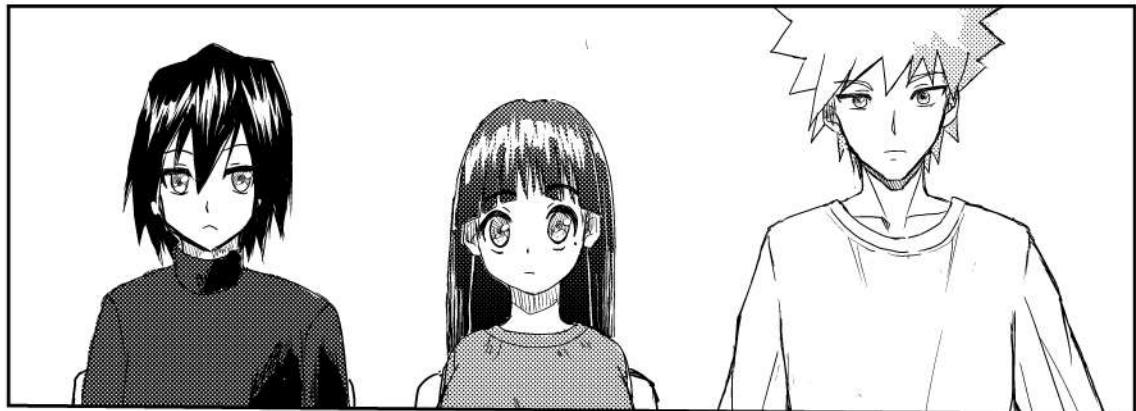
おりこそ
折子研究室へ

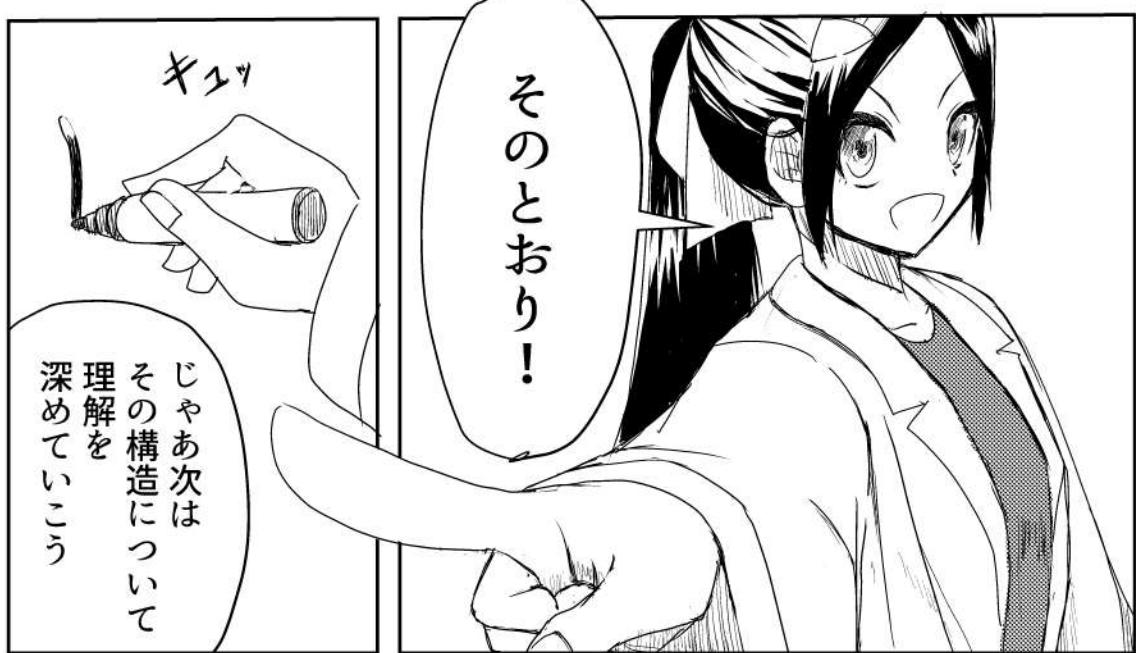
ここで
研究員をやつています
艶川仁美です

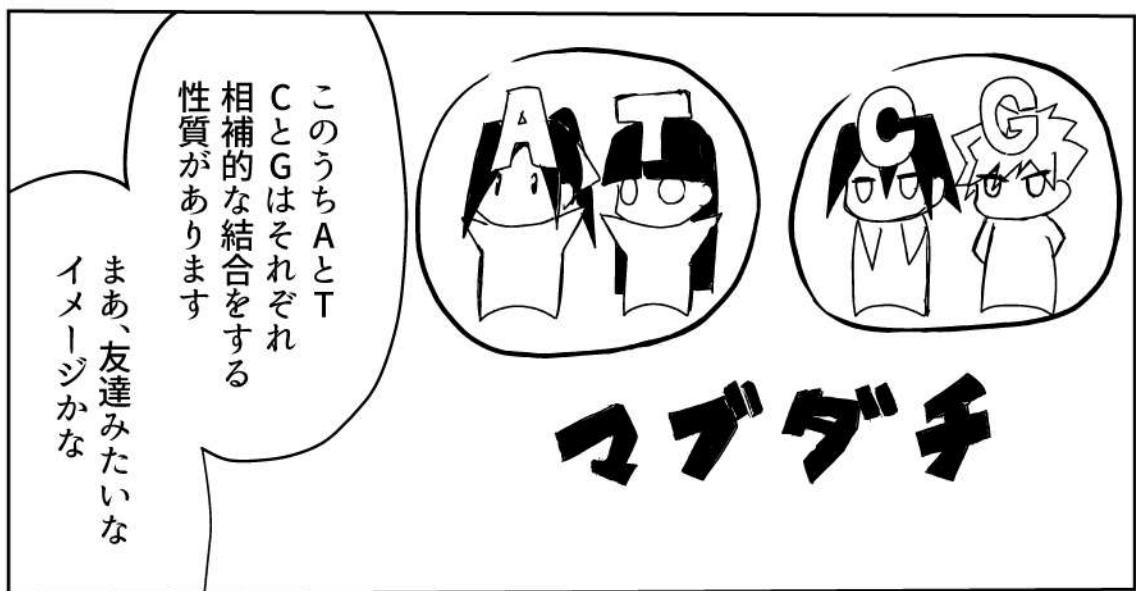












この4種の塩基による
二重らせん構造が
DNAの基本的構造に
なります：・
わかりましたか？



じつさい
それがどういう風に
使われてるとかが
よくわかんないんだよなあ



うーん…
まあ、それは
わかつたけど



そうだよね
その疑問に答えるためにも
DNAを利用した
検査・研究をするうえで
欠かせない
合成DNAについて
つぎは話していきましょ





プライマー
プローブ

合成DNAの
主な利用法は
プライマーまたは
プローブの
2つとなります



プライマーとは

1本鎖になっているDNAに
合成したオリゴヌクレオチドを
結合させて
DNAが生成する条件を
整えてあげると

ここから伸長反応が起り
相補的な鎖を合成していきます

この反応を起こす起点となる
オリゴヌクレオチドを
プライマーと呼びます

主にDNAの增幅などに
使用されますね

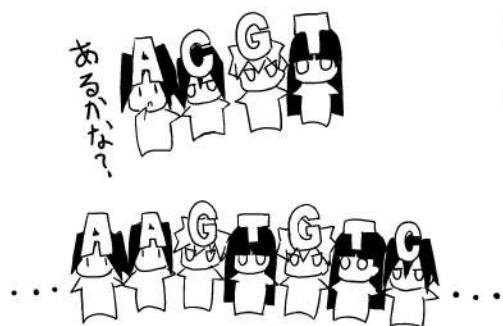


それじゃあ
お次は
プローブについて
話していこう！

その特定の塩基配列と
相補的に結合する
オリゴヌクレオチドを
加えます

いろいろなDNAが
存在している場合において
特定の塩基配列を持つ
DNAの有無を
確認したいとき

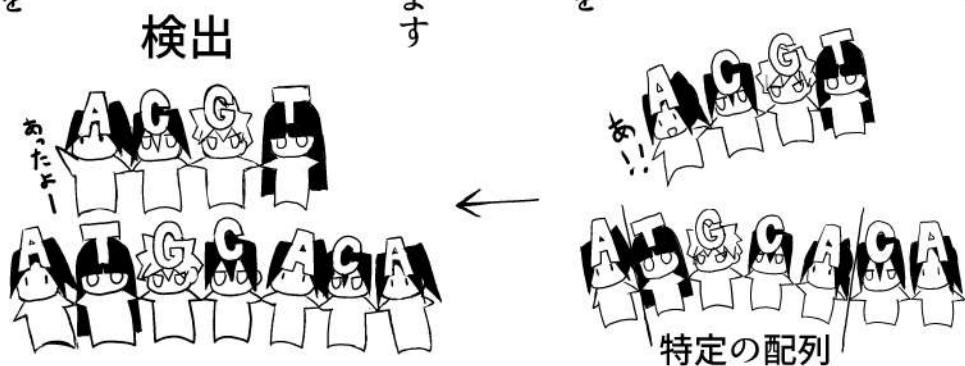
プローブとは



この時に使われる
オリゴヌクレオチドを
プローブと呼びます

その結合したDNAを
何らかの形で
検出することで
その存在の有無を
確認することができます

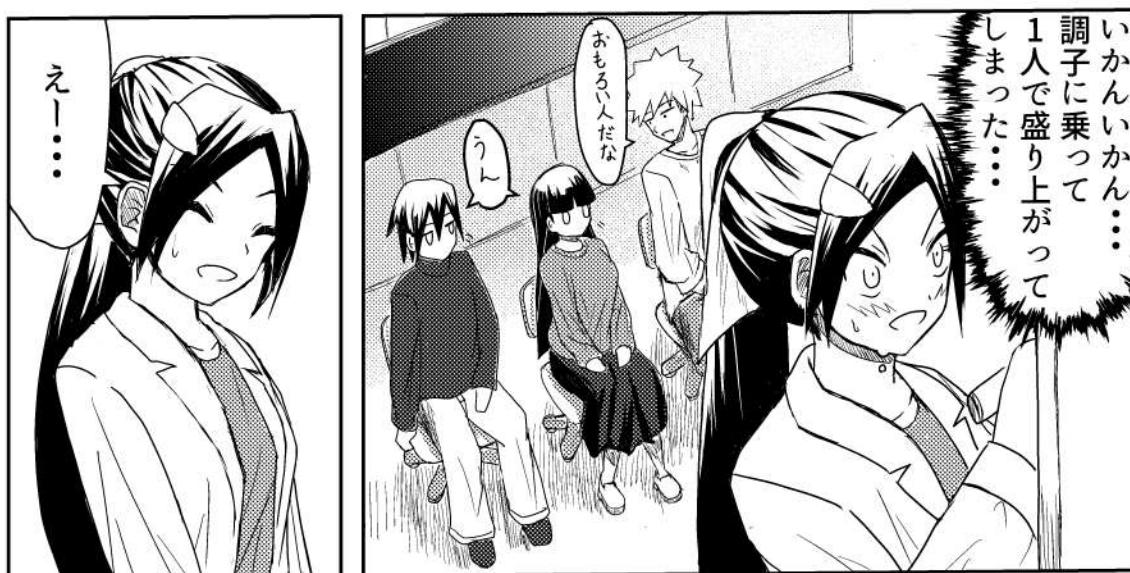
特定の配列が存在すると
結合が起りますよね



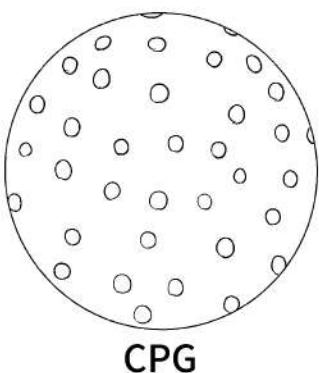
このように
合成DNAを使えば…

特定のDNAの增幅や検出が
可能になるのです!!





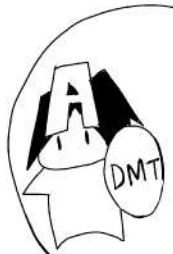
CPGとは
表面上に無数の
小さな穴が
開いた
ガラスの粉です



DNAの合成には
CPGというものが
詰められたカラムを
使います



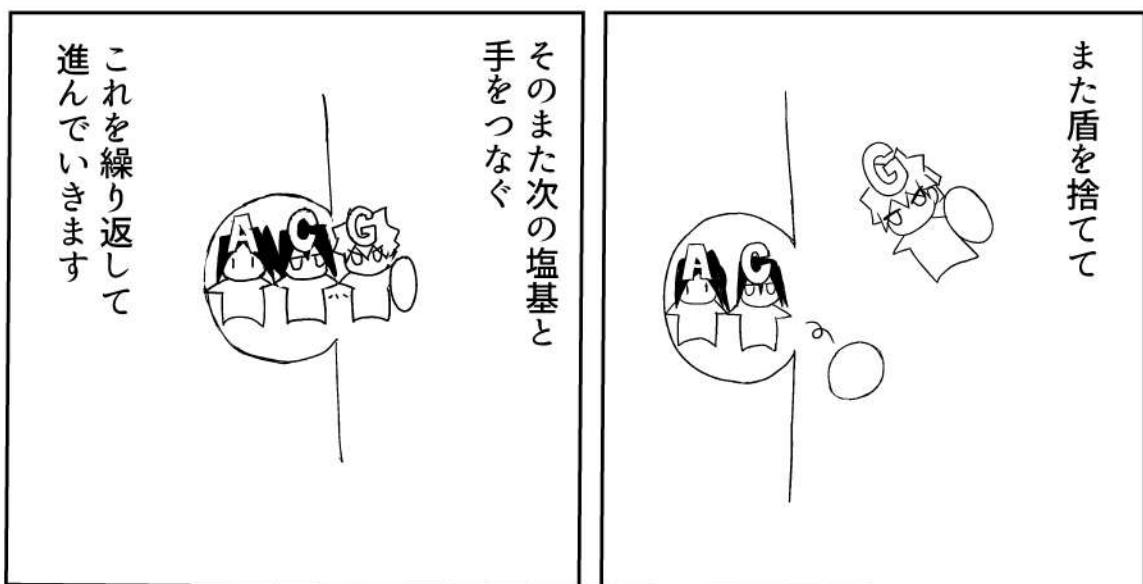
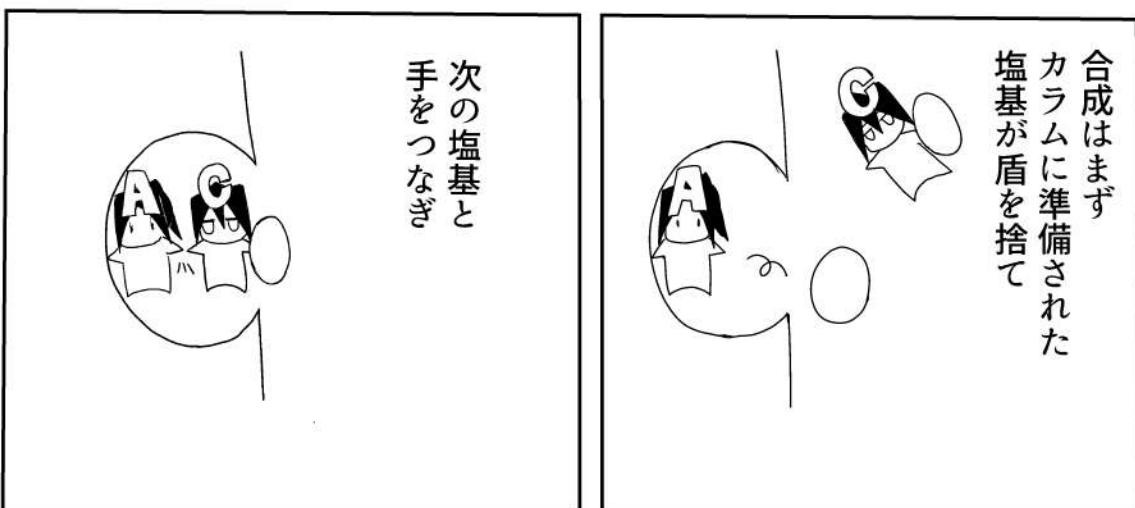
CPG



その穴の中には
A、C、G、Tの
いずれかの
塩基が準備されています
例えばAのカラムには
Aの塩基がついた
CPGが
詰められている
ということですね

合成はこの塩基を
起点として
開始します







これがDNA合成の
基本原理になります
わかったかな？



いや…
今度はこれをカラムから
切り出していかないと

じゃあ
これで完成？





このアンモニアをカラムに
加えて室温で1時間程おくことで
オリゴヌクレオチドを
C P Gから切り離す
ことができます

